

動画内資料の訂正

対象の動画 43. RDSを設置しよう(2)

現在のRDS作成画面が収録当時と異なるため、
本資料では最新のUIでのRDSインスタンス作成手順をご説明します。

データベースの作成

データベース作成方法を選択 [情報](#)

- ☒ **標準作成**
可用性、セキュリティ、バックアップ、メンテナンス
といったすべての設定オプションを設定します。

- ☐ **簡単に作成**
推奨されるベストプラクティス設定を使用します。一
部の設定オプションは、データベースの作成後に変更
できます。

動画1:03～

エンジンのオプション

エンジンのタイプ [情報](#)

- ☐ Aurora (MySQL
Compatible)



- ☐ Aurora (PostgreSQL
Compatible)



- ☒ **MySQL**



- ☐ MariaDB



- ☐ PostgreSQL



- ☐ Oracle

ORACLE

- ☐ Microsoft SQL Server



動画1:08～

エディション

- ☒ **MySQL Community**



既知の問題と制限

特定のデータベースバージョンの潜在的な互換性の問題については、[既知の問題と制限](#) をご確認ください。

▼ フィルターの非表示

- ☒ マルチ AZ DB クラスターをサポートするバージョンを表示する [情報](#)

1つのプライマリ DB インスタンスと2つの読み取り可能なスタンバイ DB インスタンスを持つマルチ AZ DB クラスターを作成します。マルチ AZ DB クラスターでは、トランザクションコミットレイテンシーが最大2倍高速で、通常35秒未満で自動フェイルオーバーができます。

- ☒ Amazon RDS Optimized Writes をサポートするバージョンを表示する [情報](#)

Amazon RDS Optimized Writes では、追加料金なしで書き込みスループットが最大2倍向上します。

エンジンバージョン

MySQL 8.0.32

動画1:16～

本資料作成時の最新バージョンを選択

テンプレート

お客様のユースケースに合わせてサンプルテンプレートを選択します。

- ☐ **本番稼働用**

高い可用性と、高速で安定した
パフォーマンスのためには、デ
フォルト値を使用します。

- ☒ **開発/テスト**

このインスタンスは本番稼働環
境ではない開発で使用します。

- ☐ **無料利用枠**

RDS 無料利用枠を利用すると、
新しいアプリケーションの開
発、既存のアプリケーションの
テスト、Amazon RDS の実践経
験の蓄積が可能です。 [情報](#)

動画2:12～

可用性と耐久性

デプロイオプション 情報

以下のデプロイオプションは、上記で選択したエンジンでサポートされているものに制限されています。

- ☐ マルチ AZ DB クラスター - 新規
プライマリ DB インスタンスと2つの読み取り可能なスタンバイ DB インスタンスを含む DB クラスターを作成し、各 DB インスタンスを異なるアベイラビリティゾーン (AZ) に配置します。高可用性とともにデータの冗長性を実現し、読み取りワークロードに対応するための容量を増やします。
- ☐ マルチ AZ DB インスタンス
プライマリ DB インスタンスとスタンバイ DB インスタンスを、それぞれ異なる AZ に作成します。高可用性ならびにデータの冗長性が得られますが、スタンバイ DB インスタンスでは、読み取りワークロードへの接続はサポートされません。
- ☒ 単一の DB インスタンス
スタンバイ DB インスタンスのない単一の DB インスタンスを作成します。

動画4:02～

設定

DB インスタンス識別子 情報

DB インスタンスの名前を入力します。この名前は、AWS アカウントが現在の AWS リージョンで所有しているすべての DB インスタンスにおいて一意である必要があります。

aws-and-infra-web

DB インスタンス識別子は大文字と小文字の区別がありませんが、すべて小文字で保存されます (例: "mydbinstance")。制約事項: 1～60 文字の英数字またはハイフン。1 文字目は文字である必要があります。連続する 2 つのハイフンを含めることはできません。ハイフンで終わることはできません。

▼ 認証情報の設定

マスターユーザー名 情報

DB インスタンスのマスターユーザーのログイン ID を入力します。

root

1～16 文字の英数字。1 文字目は文字である必要があります。

- ☐ AWS Secrets Manager でマスター認証情報を管理する

Secrets Manager でマスターユーザーの認証情報を管理します。RDS はパスワードを生成し、ライフサイクル全体を通じて管理できます。

Secrets Manager でマスターユーザーの認証情報を管理する場合、一部の RDS 機能はサポートされません。詳細はこちら [🔗](#)

- ☐ パスワードの自動生成

Amazon RDS がパスワードを生成するか、お客様がご自身でパスワードを指定することができます。

マスターパスワード 情報

password

制約事項: 表示可能な ASCII 文字で 8 文字以上で入力してください次の文字を含めることはできません: / (スラッシュ)、(単一引用符)、* (二重引用符)、および @ (アットマーク)。

マスターパスワードの確認 情報

password

動画2:32～

インスタンスの設定

以下の DB インスタンスの設定オプションは、上記で選択したエンジンでサポートされているものに制限されています。



Amazon RDS Optimized Writes - 新規 情報

☒ Amazon RDS Optimized Writes をサポートするインスタンスクラスを表示

DB インスタンスクラス 情報

- ☐ 標準クラス (m クラスを含む)
- ☐ メモリ最適化クラス (r クラスと x クラスを含む)
- ☒ バースト可能クラス (t クラスを含む)

db.t2.micro
1 vCPUs 1 GiB RAM Not EBS Optimized

☒ 以前の世代のクラスを含める

動画3:12～

「以前の世代の～」にチェックを入れないと t2.micro が選択できない

ストレージ

ストレージタイプ 情報

汎用 SSD (gp3)

パフォーマンスはストレージから独立して拡張

ストレージ割り当て 情報

20

GiB

最小: 20 GiB。最大: 6,144 GiB

動画3:22～

接続 情報

コンピューティングリソース
このデータベースのコンピューティングリソースへの接続を設定するかどうかを選択します。接続を設定すると、コンピューティングリソースが自動的にこのデータベースに接続できるように構成されます。

☒ EC2 コンピューティングリソースに接続しない
このデータベースのコンピューティングリソースへの接続を設定しないでください。後でコンピューティングリソースへの接続を手動で設定できます。

☐ EC2 コンピューティングリソースに接続
このデータベースの EC2 コンピューティングリソースへの接続を設定します。

Virtual Private Cloud (VPC) 情報

VPC を選択します。VPC は、この DB インスタンスの仮想ネットワーク環境を定義します。

aws-and-infra-vpc (vpc-05f53801b7a6b9a71)
4 サブネット, 2 Availability Zones

対応する DB サブネットグループがある VPC のみが表示されます。

① データベースの作成後に、VPC を変更することはできません。

DB サブネットグループ 情報

DB サブネットグループを選択します。DB サブネットグループは、選択した VPC で DB インスタンスが使用できるサブネットと IP 範囲を定義します。

aws-and-infra-subnet-group
2 サブネット, 2 Availability Zones

パブリックアクセス 情報

☐ あり
RDS はデータベースにパブリック IP アドレスを割り当てます。Amazon EC2 インスタンスと VPC 外のリソースはデータベースに接続できます。VPC 内のリソースもデータベースに接続できます。データベースに接続できるリソースを指定する VPC セキュリティグループを 1 つ以上選択します。

☒ なし
RDS はデータベースにパブリック IP アドレスを割り当てません。Amazon EC2 インスタンスと VPC 内の他のリソースのみがデータベースに接続できます。データベースに接続できるリソースを指定する VPC セキュリティグループを 1 つ以上選択します。

VPC セキュリティグループ (ファイアウォール) 情報

データベースへのアクセスを許可する VPC セキュリティグループを 1 つ以上選択します。セキュリティグループのルールで適切な受信トラフィックが許可されていることを確認します。

☒ 既存の選択
既存の VPC セキュリティグループの選択

☐ 新規作成
新しい VPC セキュリティグループの作成

既存の VPC セキュリティグループ
Choose one or more options

aws-and-infra-db X

アベイラビリティゾーン 情報

ap-northeast-1a

動画4:32～

※VPCやDBサブネットグループが選択肢に表示されない場合は
42.RDSを設置しよう(1)までに作成したインスタンス等を見直してください。

▼ 追加設定

データベースポート 情報

データベースがアプリケーションの接続に使用する TCP/IP ポート。

3306

データベース認証

データベース認証オプション 情報

☒ パスワード認証
データベースのパスワードを使用して認証します。

☐ パスワードと IAM データベース認証
AWS IAM ユーザーとロールを介して、データベースパスワードとユーザー認証情報を使用して認証します。

☐ パスワードと Kerberos 認証
承認されたユーザーに、Kerberos 認証を使ってこの DB インスタンスで認証を行うことを許可するディレクトリを選択します。

モニタリング

モニタリング

☐ 拡張モニタリングの有効化
拡張モニタリングメトリクスを有効にすると、さまざまなプロセスやスレッドで CPU がどのように使用されているのかを確認し、たいときに便利です。

動画5:51～

動画8:33～

▼ 追加設定

データベースオプション、バックアップ をオンにしました。バックトラック をオフにしました。メンテナンス、CloudWatch Logs、削除保護 をオフにしました。

データベースの選択肢

最初のデータベース名 [情報](#)

データベース名を指定しないと、Amazon RDS はデータベースを作成しません。

DB パラメータグループ [情報](#)

aws-and-infra-mysql80 ▼

オプショングループ [情報](#)

aws-and-infra-mysql80 ▼

動画6:20～

バックアップ

☒ 自動バックアップを有効にします

データベースのポイントインタイムスナップショットを作成します

⚠ 自動バックアップは現在 InnoDB ストレージエンジンでのみサポートされていることに注意してください。MyISAM を使用している場合、詳細については[こちら](#)を参照してください。

バックアップ保持期間 [情報](#)

自動バックアップが保持される日数 (1～35)。

30 ▼ 日間

バックアップウィンドウ [情報](#)

RDS が自動バックアップを実行する毎日の時間帯 (UTC)。

☒ ウィンドウを選択

☐ 設定なし

開始時間

19 ▼ : 00 ▼ UTC

期間

0.5 ▼ 時間

☒ スナップショットにタグをコピー

動画7:01～

メンテナンス

マイナーバージョン自動アップグレード [情報](#)

☒ マイナーバージョン自動アップグレードの有効化

マイナーバージョン自動アップグレードを有効にすると、新しいマイナーバージョンがリリースされたときに自動的にアップグレードされます。自動アップグレードは、データベースのメンテナンスウィンドウに行われます。

メンテナンスウィンドウ [情報](#)

Amazon RDS によってデータベースに運用されている保留中の変更またはメンテナンスの期間を選択します。

☒ ウィンドウを選択

☐ 設定なし

開始日

日曜日 ▼

開始時間

20 ▼ : 00 ▼ UTC

期間

0.5 ▼ 時間

動画8:56～

削除保護

☐ 削除保護の有効化

データベースが誤って削除されるのを防ぎます。このオプションが有効になっている場合、データベースを削除することはできません。

① お客様は、AWS のサービスで使用するサードパーティーの製品やサービスについて、必要なすべての権利を保有していることを確認する責任があります。

キャンセル

データベースの作成